

Der Hafen

(港)

2012年はどんな年に
なるでしょうか？

横浜日独協会会長 早瀬 勇

いや、どんな年にしなくてはならないでしょうか？米国の大統領選をはじめ世界のいくつかの国が選挙年（Election Year）を迎えてます。Election Year は国民が現職者の実績をチェックする好機ですが、候補者が票集めのために有権者におもね、実行不可能な甘い政策を掲げる傾向が否めません。また、最初は政策論争、最後は個人攻撃となった醜い大統領候補者もかなりいました。

日本ではどうでしょうか？「毎日が日曜日」という小説を書いた気骨の作家・城山三郎が生きていたら、「毎年が首相選挙年」の日本の政治家や選挙民をきっと叱正したことでしょう。国の将来を見つめ、子孫の幸せを考える本当の“ステーツマン”的の出現を待望します。かつて「国民が嫌うから」と周囲から袖を引っ張られながらも、増税を含む税制改革を掲げて壮絶な総選挙に望み、まもなく命を落とした宰相が日本にもいました。強い信念を持った教養人でした。われわれ選挙民にも大きな責任があります。地元の冠婚葬祭に駆けずり回り、議員立法などとはおよそ縁がなく、資金源不明のモチ代をくれる古い政治屋を親分に仰いでいるような御仁を当選させる選挙民は、子孫から批判されても仕方ありませんね。毎年首相が変わる日本。外相はもっと早く変わることで誰が日本のリーダーを感じますか？派閥や黒幕への配慮で閣僚を決める時代ではないのです。

昨年横浜に27名の独協会一行がこられた際、V会長ご夫妻に個人的にささやかな横浜の記念品を贈ったお礼として、すばらしい記念コインを奈良で頂きました。それには戦後18年間外相を務め、敗戦国ドイツの国際的地位を高めたゲンシャーの肖像が入っていました。信念を持って実績を積み重ね、国益のために本当に役に立つ人材なら、国民は党派を超えて支えるべきです。ドイツから学ぶべき事はまだ沢山あります。ドイツとの絆を大切に、2012年も日独交流に本当に役立つ横浜日独協会を作りましょう。（了）

*会長コラム「オ、タンネンバオム（2）」は4頁に掲載しております。

横浜日独協会会報

発行 2012.2.1 (第7号)

事務局：〒223-0058 横浜市港北区新吉田東2-2-1-913

能登 崇 方

Tel & Fax 045-633-8717

e-Mail tak_noto@yahoo.co.jp

会報編集責任者 大久保 明

e-Mail a-okubo1926@ttmy.ne.jp

2012年は横浜日独協会の飛躍の年
となる事を願って

横浜日独協会副会長 黒崎 稔

2011年は3月11日の東日本大震災・福島原発事故など日本にとって国難と言っても良い様な戦後最悪の年でありました。そのような厳しい状況下にもかかわらず日独修好150周年の記念行事は両国の堅い絆により日本全国いたる所で肃々と執り行われました事は皆様方も良くご存知の通りであります。横浜日独協会も幾多の困難を乗り越えて毎月の例会やその他の行事を行ってまいりました。詳細に関してはDer Hafen 第6号に記載されていますのでここでは省略させて戴きます。

さて、2012年は12支の中で唯一の想像上の動物である辰年であります。古くから昇り竜と言われている通り飛躍の年となる事を願っております。

横浜日独協会としては昨年横浜市がパートナーシップ協定を締結したフランクフルト市の独協会との提携、テレビ神奈川の40周年記念行事と呼応して環境先進国であるドイツへの環境をテーマとした旅行等を計画しております。また例会の内容の充実を図り会員の皆様のご期待に応えられるように一層の努力をする所存であります。会員の皆様方におかれましては積極的に例会などに参加戴き会員相互間の親睦を深めると共に会の飛躍の一翼を担って戴く事をお願いし新しい年のご挨拶とさせて戴きます。

tvk（テレビ神奈川）の番組制作への協力

開局40周年を迎えるtvkから特別番組制作への協力依頼があり、阪急交通社を加えての第1回打合せ会が1月11日開かれました。概略は以下の内容です。

番組：明日の地球と子どもたち

放映日：2012年9月8日（土）、9日（日）

（連続40時間）

横浜日独協会の支援協力は、番組取材として「環境先進国ドイツの旅—地球を守る命の森」への解説者として早瀬 会長の協力及びツアーハードルへの会員の参加です。

ツアーハードルの概要は予定として、7月第1週（8日間）命の森と言われる、シュヴァルツヴァルト地域を中心に、森林学部を持つフライブルク大学や、カールスルーエ大学・工業研究所（環境や原子力に代わるクリーンエネルギー研究）の訪問とハイデルベルク、ノイシュヴァンシュタイン城等の観光。詳細は次号にてお知らせ出来るものと思われます。

横浜日独協会ホームページ

URL:<http://jdgy.sub.jp/index.htm>

12月の例会と忘年会

「やっと ハマっ子！明治より現在への道のり」—ウインクレル商会及びゼーリヒ家の日本における歴史を中心に一を聞いて

会員 中村 建一



(中村建一氏)

横浜日独協会理事のウインクレル株式会社代表取締役のロベルト・ゼーリヒ氏のお話は当時その時々の写真を見せて頂きながら、現代と幕末の大きな歴史の変動にも拘わらず横浜を中心に事業家の商才あふれる逞しい一貫した生き様はこれがドイツ人魂かと圧倒された次第です。

私は、生まれて初めて今回身近にドイツ人に接した方がロベルト・ゼーリヒ氏とその奥様でした。御二人とも銀色の髪を靡かせ、呼吸を合わせ甲斐甲斐しく講演の準備をされている御姿は、実にほほえましく、誠実で真面目なお人柄が伝わってきました。



(講演されるロベルト・ゼーリヒ氏)

ウインクレル株式会社の創設時代は合名会社ウインクレル商会といい実にその時期は1885年。1853年ペリー提督が浦賀に最初に来た時からわずか32年後という歴史の古さにびっくりしました。しかも創設者の一人のヤコブ・ウインクレル青年19歳は、1870年にバンコックから横浜に足を踏み入れたそうです。今まで126年の歴史、しかもドイツの会社がよくぞここまでやれるものだと思いました。

‘’といつてもその道程は、決して順風満帆ではなく日本の歴史に大きく変動を余儀なくされたことを学びました。ウインクレル商会創立後、第一次大戦の勃発による事業中断、関東大震災による事務所消失、第二次大戦で営業停止という大波これら以外に小波は数知れずあったことでしょう。にも拘わらず脈々とヤコブ・ウインクレル青年の命脈は、その後も母国の事業パートナーの力により受け継がれ今日に至った沿革はドイツ人魂を彷彿させ且つ驚愕するものがあります。



(講演会会場内)

準備して頂いた資料は、歴史で変色した大判の貿易通信コードブック、ローマ字による日本人従業員達の給与台帳、エンサイクロペディア辞典、英文による詳細な明治天皇等紹介の日本に関する百科事典などの逸品でした。

又、次々にスクリーンに映し出される当時のウインクレル商会が取り扱っていた落花生、糸瓜、毛皮、竹竿、竹細工、玩具、陶磁器、真珠貝ボタン、漆器類、手工業品などの商品の数々並びに和服作業の女工さんや正装しカイザーハイヒュンゲルトをはやしたドイツ人経営者やその御婦人の集合写真、全東京31社等の電話番号表や地図などは明確に、会社経営者がこれらの資料をこれまで如何に大切に扱い保管されてきたのか、ひいては暖簾を営々と伝えているのかを大いに感じました。



(洋光台男声合唱団のシニアの皆さん)

お話の会場はゼーリヒ理事の計らいで、横浜カントリーアンドアスレティッククラブという1868年創設という由緒ある会場でしかも忘年会も併せて行われたのでお話の前に会員にシャンパン、ワイン等とシュトレンが振舞われ、お話の後は、すばらしい洋光台男声合唱団シニアグループの歌を聴きながら美味しいドイツ料理に舌鼓を打ちながら日独交流の花が咲きました。



(ゼーリヒ夫妻を囲んで懇談)

横浜日独協会の会員となり且つ例会に出ることで自国の歴史認識、ドイツ人魂そして日独交流の実際が理解できることは人生一生の財産となりました。

ロベルト・ゼーリヒ氏と奥様有難うございました。お疲れ様でした。

(了)

1月例会

ソーセージ ファクトリーの見学

会員 中尾 尚未



(中尾尚未氏) 小雨降る土曜日の午後、総勢40名で相鉄線いずみ中央駅近くのソーセージ ファクトリーに見学に行きました。四人姉妹で運営する(株)BEANSは、2007年発足当時から現在に至るまで、ドイツの国際コンテストで数々のメダルを獲得しています。素材にこだわって丁寧につくる製品は、「家族に食べさせたい安心で安全なソーセージ造り」への熱意とドイツ食肉マイスターのポール・ザイラー氏(日本ハムのシャウエッセンの開発に携わられ、現在はシンガポールのホテルに赴任中)との出会いで実現したようです。マイスターの厳しい特訓は、ハム、ソーセージの作り方だけにとどまらず、機械の維持管理の仕方にまで及んだそうです。



(工場内で説明する3姉妹ー長女は出張中)

数ある機械の中で、印象に残ったのはドイツ製の6枚刃のフードプロセッサーです。3600回転する車のエンジン並みの攪拌能力と、危険を制御するポルシェ並みのブレーキが備わっているとのことでした。使ったあとは、ピカピカに磨かれオイルが丁寧にぬられていました。機械だけでなくステンレスの調理台の管理まで指導を受け、今も時々訪れるザイラー氏の教えを守り続けています。



(工場内部での説明を受ける皆さん)

食肉業だった父親のもとで育った四姉妹の結束力と日本人の繊細な味覚を守りたいという情熱を根っこにもっているのだなあと、次の方の説明から感じ取ることができました。冷蔵庫以外は全部ドイツ製の機械で、がっちりとした印象です。

説明を聞きながら、私は以前ハンブルグに住んでいた時、Metzgerei(肉店)で近所の人がソーセージの出来上がりの間に合わせてほかほかの湯気がたったのを買以に来ていた事を思い出していました。



(公会堂の会場へ移動再度説明と懇親会)

保存料を一切いれず、肉と塩とスパイスだけで作る安心の製品は徹底した工場管理の中で実現するわけです。亜硝酸などの発色剤を使わず、天然酵母発色の方法がどんなに手間暇がかかるのか説明を受けました。肉は神奈川県清川村の水のきれいなところで飼育された豚肉を直接仕入れ、必要時に必要分を供給してもらい、新鮮さにこだわっているそうです。

私達は、決して広くはないファクトリーの中を大勢で押し掛けたので、説明付きの見学は2グループに分かれました。あいにく長女の方は北海道出張で不在でしたが、他の3人の方は総出で対応して下さいました。最後に熱い麦茶を頂いて温まったところで、試食のレバーブルストと、ザウワークラウトと一緒にパンにはさんだステーキソーセージを頂き、美味しい幸せな気分になりました。この味が忘れられず買って帰りたい人は、パックになったベーコンやソーセージを注文しました。

品物の用意ができるまでの間、場所を代えてお茶とお菓子で歓談し会員の方たちの懇親も深まったようです。中には熱心にお料理の仕方などを質問される方もいて、会員の方々の生活ぶりも聴くことができました。こうした機会を重ねていくと会員同士の交流も深まり、次の企画の発案につながっていくのではないかと感じました。

♪♪洋光台男声合唱団 第10回演奏会

横浜日独協会忘年会で素敵なハーモニーを御披露下さいました洋光台男性合唱団の演奏会が開催されます。横浜日独協会の会員の方々も団員として参加されております。どうぞ、演奏会へお出かけ下さい。

日時 2012年2月25日(土)

13:00会場 13:30開演

会場 神奈川県立音楽堂

(桜木町駅より徒歩10分)

入場料 1,500円 (全席自由)

お問い合わせ 045-832-7401 (三上)

URL <http://yodan.sakura.ne.jp>

12月会報の続き

オー、タンネンバオム (2)

会長 早瀬 勇

高度成長時代に日本の大都会で朝夕満員電車に揺られていた頃は、森や水の大切さとか「命の森」とかを耳にしても実感できなかつた。空気がいいなど感じるのは、週末の接待ゴルフで林に打ち込んだときぐらいで、わざわざ休日に電車に乗って遠くに行き、山野を跋渉する時間も気力もなかつた。大気汚染や、列島全体に拡大した乱開発が地球を破壊すると日本国民が危惧し始めたのはつい最近のことである。

ドイツ人の *Wanderlust* (ヴァンダーラスト: 旅ごころ、さすらいの旅への志向) は有名だ。学生たちも休日になると *Wandervogel* (ヴァンダーフォーゲル: 渡り鳥) よろしく歩き回る。学生寮で夜中まで議論していても翌朝リュックザックに黒パンと小振りのリンゴを入れて起こしにくる (48年前の体験)。ドイツには至るところに人が入れる自然の森 (*Wald*) や手入れされた植林 (*Forst*) があって足腰の訓練や森林浴が楽しめる。食生活は簡素でも、ドイツに伝わるこの *Wanderlust* が頑健な心身を作っているように感じられた。森林は近くにあるほうが有難い。ランクフルト在勤中は近くのシュタット・ヴァルト (市の森) を子供たちと散歩した。日本ではコンクリートジャングルの都市に植林する意味は大きい。二酸化炭素の吸収、鉄砲水等による地滑りの歯止め、騒音の吸収、などメリットは計り知れない。

森林に分け入ってみると、管理面でもドイツは素晴らしい。わが国は森林率が 6.9%、森林面積でもドイツの 2 倍を誇るが、前号に既述の通り林内路網密度、木材生産量、木材輸出量、木材自給率でドイツより低い。森林の自然保護と木材の増産とは一見相容れないように思えるが、伐採した後にはそれを上回る数の苗木を植えていくので、自然環境の持続とともに 20~30 年後の木材生産量が確保される。自然エネルギー源としての木質バイオマス (ペレットなど) は日本でも注目されている。大学や専門学校での森林教育でも日本が学ぶべきものが多くありそうだ。

日独修好 150 周年を記念して、ドイツ大使が昨年日本各地の日独協会に菩提樹 (*Lindenbaum*) の苗木を贈って下さり、当協会が頂いた 3 本は神奈川大学のキャンパスに植樹された。周りの学生たちと一緒にすくすくと育って、日独交流のシンボルとして植樹の大切さを示し続けてくれることでしょう。 (了)

*訂正：前号の (1) 最終より 9 段目 (森林内路線) は (森林内路網) の編集上の間違いでした。訂正致します。

編集後記

○2012 年は復興そして将来への希望の年でもあります。早瀬会長、黒崎副会長のメッセージを掲載致しました。横浜日独協会は全国の 60 を越える数の日独協会の中設立 1 年余りで、規模・活動も有数の協会となりました。各催し物への会員の参加も会を重ねるごとに増えております。会報編集者として、このような横浜日独協会に相応しい会報とすべく会員の皆様のご協力ご支援を頂き新たな展開を図りたいと考えておりますので宜しくお願ひいたします。 (大久保)

行事予定

① 2月例会

講演会「ドイツと EU」

講師 ゲブハルト・ヒールシャー氏 (元南ドイツ新聞特派員、元神奈川大学経営学部特命教授)

日時 2月 18 日 (土) 14:00 ~

会場 横浜市吉野町市民プラザ会議室

電話 045-243-9261

地下鉄「吉野町」京急「南太田」駅より

徒歩 3~4 分

会費 1,000 円

② 3月例会

講演会「ボッシュの企業理念」

ボッシュは創業 125 周年をまた日本進出 100 周年を迎えてます。

講師 田上雅弘氏 (ボッシュ株式会社横浜所長)

日時 3月 24 日 (土) 14:00 ~

会場 ボッシュ社内 (都筑区牛久保 3-9-1)

横浜市営地下鉄中川駅下車徒歩約 15 分

電話 045-912-8007 総務グループ玉井マネージャー

会費 1,000 円

③ 4月例会

「キリン横浜ビアビレッジ」見学

日時 4月 7 日 (土) 14:00 ~

会場 キリン横浜ビアビレッジ (鶴見区生麦 1-17-1)

会費、人数制限等の詳細は現在工場が工事中につき未定です。3 月に決まる予定です。

④ 5月例会

講演会「芥川龍之介の世界とドイツ」

講師 宮坂覺フェエリス女学院大学学長

日時 5月 19 日 (土) 15:00

会場 未定

会費 1,000 円

6 月以降は現在、6 月は映画会、7 月はドイツ旅行 (tvk 取材 1 頁参照) 報告会または横浜港クルージング、8 月はお休み、9 月はオクトーバーフェスト等が検討されています。どうぞ多くの皆様のご参加を希望します。また、会員の皆様のアイデアや希望をお寄せ下さい。

事務局支援のお願い

会員の増加、催し物の多様化等で事務局の業務が多忙になっております。お手伝いを頂ける方は是非事務局へご連絡くださいようお願い致します。お手伝い頂ける事は色々ありますので、能登常務理事とご相談下さい。